

# 国破れて山河あり

いぶかかじのすけ あいづはんがっこうぶぎょう いぶかたくえもんしげよし あいづはんかうさいごうたのもちかもと やよこ  
井深梶之助は、会津藩学校奉行の井深宅右衛門重義と、会津藩家老西郷頼母近思の四女八代子の間に長男として、

かえい あんせい あいづわかまつじょう つるがじょう  
1854(嘉永7年、安政1元)年7月4日、会津若松城(鶴ヶ城)下の母方の実家で生まれました。

けいおう きゅうぼくふぐん しんせいふぐん とぼ ふしみ ほしんせんそう きょうとしゅごしよく  
1868(慶応4、明治元)年1月、旧幕府軍と新政府軍が鳥羽・伏見で衝突し、戊辰戦争が始まります。京都守護職を任される

とくがわぼくふ よぎ  
など、徳川幕府の信頼が厚かった会津藩も新政府軍との戦いを余儀なくされました。しかし、この時、年少であった井深は

びやっこたい  
白虎隊に加わることはできませんでした。

あいつろうじょうせん まつだいらかたもり こしょう  
会津籠城戦は1868(慶応4、明治元)年8月23日から9月22日まで30日間続き、井深も藩主である松平容保の小姓として

ほうだん  
戦います。この間、新政府軍の砲弾は絶え間なく続き、一日に1200発の砲弾が撃ち込まれたといわれています。9月22日、籠城の

しょくりょう だんやく どうめいしよはん こうせん あいづわかまつじょう  
ための食糧や弾薬が尽き、さらに同盟諸藩が次々と降伏したため、会津藩はついに抗戦をあきらめ降伏し、会津若松城を新政府軍へ渡しました。

のぶのり たきざわむらみょうこくじ ゆうへい いなわしろ きんしん  
降伏した後、松平容保はその子喜徳と共に滝沢村妙国寺に幽閉され、井深らは猪苗代の民家に謹慎させられました。後年、井深はこの猪苗代の家で食べた夕食の飯の白さとうまさは60年経っても忘れることができない、と回想しています。それほど少年井深梶之助にとって籠城戦が過酷な日々であったことを示しています。

はんめい  
その後、井深は洋学修行の藩命を受けて上京することになりましたが、費用は一切出ず自分の力で何とかしなければなりません。

しゅうぶんかん がくほく ていこうかん  
せんでした。横浜の修文館※1で学僕※2の仕事を得ましたが、井深の心の内にはその仕事に対する抵抗感があつたであろうことは容易に想像することができます。しかし、この修文館で井深の生涯の師となり、井深をキリスト教へと導くS.R.ブラウン宣教師と出会うこととなります。

会津という国は敗れましたが、ここから井深にとっては新しい「国づくり」が始まり、

かじ しんろ  
やがて明治学院という新しい船の「舵」取りをゆだねられ、その針路を指し示す人へとなっていくのです。

※1修文館・・・横浜にあった英学校 ※2学僕・・・用務員を兼ねた学生のこと

## POINT

ぼしんせんそう  
戊辰戦争・・・

1868(慶応4・明治元)年1月3日に起こった「鳥羽・伏見の戦い」を発端とした、旧幕府軍(会津藩・米沢藩など)と新政府軍(薩摩藩、長州藩、土佐藩など)との間の16ヶ月に渡る戦い。

● 主な戦場

ごりょうかく はこだて  
五稜郭の戦い【函館戦争】  
(1868年10月 - 1869年5月)

## POINT

会津藩は、  
50歳以上を「玄武隊」、  
36～49歳を「青龍隊」、  
18～35歳を「朱雀隊」、  
16、17歳の少年は「白虎隊」として部隊を編成した。

ほなりとうげ  
母成峠の戦い  
(1868年8月)

あいづ  
会津の戦い  
(1868年9月)

うつのみや  
宇都宮城の戦い  
(1868年4月)

えどむけつかいじょう  
江戸無血開城(1868年4月)

しょうぎたい  
上野戦争【彰義隊の戦い】(1868年5月)

ながおかじょう  
長岡城の戦い  
(1868年5月～7月)

こうしゅうかつぬま かしわお  
甲州勝沼の戦い【柏尾の戦い】  
(1868年3月)

とぼ・ふしみ  
鳥羽・伏見の戦い  
(1868年1月)

ちょうしゅうはん  
長州藩

とさはん  
土佐藩

## アクティブラーニング

- ◆江戸時代から明治時代で、どのようなもの・ことが変わったでしょうか。そして今も変わらないもの・ことはなんでしょうか。各自で考えて、グループで発表しましょう。
- ◆もしあなたが鶴ヶ城攻防戦を経験したらどのような心の動きになったのかを想像して話しあってみましょう。
- ◆戊辰戦争で敗れた会津藩は、福島から陸奥(青森)の斗南に移されました。そこは生活することが困難であったとのこと。どのような困難があったのかを調べて発表しましょう。

## アクティブラーニングための資料

- ・学校法人明治学院『井深梶之助とその時代 第一巻』  
くやまさし
- ・久山 康 編『近代日本とキリスト教 明治篇』  
わかばやししげる
- ・若林 滋 他著『会津藩と新選組 改訂新版』  
ほしりょういち
- ・星亮一著『幕末の会津藩：運命を決めた上洛』
- ・星亮一著『会津落城：戊辰戦争最大の悲劇』  
かどまつひでき
- ・門松秀樹著『明治維新と幕臣：「ノンキャリア」の底力』

1872(明治5)年、18歳頃の井深梶之助  
横濱にて 明治学院歴史資料館所蔵



松平容保公より井深梶之助に贈られた文鎮  
明治学院歴史資料館所蔵



現在の会津若松城(鶴ヶ城)

さつまはん  
薩摩藩